

DRI 調査レポート No.56 2024

令和6年11月の沖縄本島北部での豪雨における現地調査報告

2024年12月25日現在

1. 概要

2024年11月7日から10日にかけて、沖縄本島地方では大気の状態が非常に不安定となり、特に9日の未明から朝にかけて沖縄本島北部では線状降水帯が発生し、記録的な大雨となった（図1）。

沖縄気象台は、9日の0時07分から3度にわたって「顕著な大雨に関する沖縄本島地方気象情報」を発表し¹⁾、災害発生危険度が急激に高まっているとして厳重な警戒と身の安全の確保を呼び掛けた²⁾。また、沖縄県東村・国頭村・大宜味村・名護市においては9日未明から明け方にかけて12回、10日の明け方から朝にかけて6回の「記録的短時間大雨情報」が発表される³⁾など、連日の記録的な豪雨が観測された。アメダスの「東」観測所では、観測史上最多である1時間降水量101.5mmを記録した（図2）。

9日および10日の豪雨では、大宜味村の一部地域に緊急安全確保、大宜味村・国頭村・東村の全域および名護市の一部地域に避難指示が発令され、避難等が呼びかけられた³⁾。

今回の豪雨災害では、12月13日8時00分時点⁴⁾で、床上浸水80件、床下浸水74件、半壊1件、一部破損1件の住家被害のほか、非住家の浸水2件、車両被害28台、土砂崩れが9件などの被害が報告されている。なお、人的被害については報告されていない。

人と防災未来センターは、被害が報告されている東村・国頭村・大宜味村（以下、被災3村という。）に職員2名を派遣し、11月20日から21日にかけて災害の対応状況等の調査を行った。

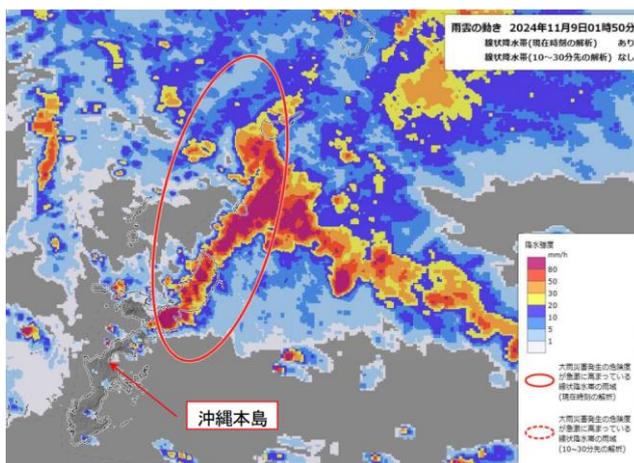


図1 11月9日1時50分時点の沖縄本島地方付近の雨雲の動き（沖縄気象台資料より引用）

東（沖縄県）										観測値	： 今回の豪雨に関する値
要素名/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	統計期間
日降水量 (mm)	430.0 (2014/10/11)	403.5 (2024/11/9)	283.0 (2011/8/5)	264 (1997/8/17)	258.5 (2012/8/27)	255.5 (2015/7/20)	247 (1985/8/13)	234 (2000/11/9)	232.5 (2020/8/24)	231.5 (2017/6/14)	1981/7 2024/12
日最大10分間 降水量(mm)	23.0 (2012/9/16)	23.0 (2011/10/4)	22.5 (2012/7/9)	21.0 (2024/11/9)	21.0 (2013/5/11)	20.5 (2017/6/14)	20.0 (2017/5/14)	20.0 (2013/5/16)	20.0 (2012/9/29)	20.0 (2010/10/19)	2009/3 2024/12
日最大1時間 降水量(mm)	101.5 (2024/11/9)	90.0 (2011/10/4)	80 (2006/6/18)	75.0 (2015/7/20)	73.0 (2012/9/29)	65.0 (2024/6/18)	65 (1999/8/1)	65 (1991/2/13)	63.0 (2024/11/8)	62.0 (2024/11/10)	1981/7 2024/12
月降水量 (mm)	841.0 (2024/11)	794.5 (2012/8)	759.5 (2024/6)	697 (2001/9)	695 (2005/6)	687 (1994/5)	676.0 (2017/6)	673.5 (2023/8)	630.5 (2019/6)	616.5 (2022/6)	1981/7 2024/11

図2 アメダス「東」観測所における降水量の観測史上1～10位の値
(気象庁「過去の気象データ検索」⁵⁾を加工して作成)

2. 調査行程

人と防災未来センターでは、現地に松村圭悟研究員、南貴久研究員の2名の派遣を決定し、以下の日程で調査を実施した。

- 11月20日 沖縄県庁、^{ひがしそん}東村（村役場・^{あるめ}有銘区）
- 11月21日 ^{くにがみそん}国頭村（村役場・^{ひじ}比地区）、^{おおきみそん}大宜味村（村役場・^{ねるめ}根路銘区・^{つば}津波区）

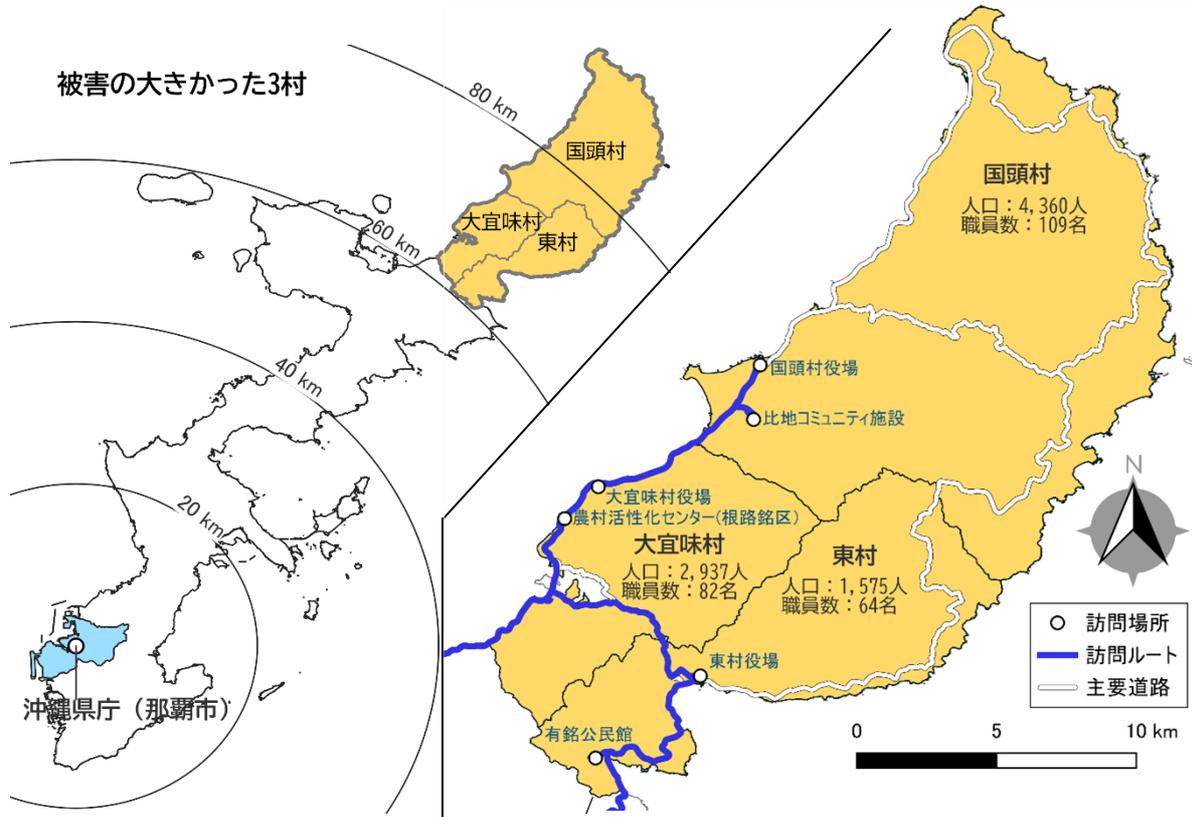


図3 沖縄本島における沖縄県庁と被災3村の位置関係（左） 被災3村内の訪問場所およびルート（右）

3. 調査報告

(1) 沖縄県庁

沖縄県庁（20日訪問）では防災危機管理課を訪問し、被害状況・対応状況の確認を行った（写真1）。沖縄県庁としては、職員を被災3村の役場に派遣し、現地の状況を把握しているとのことであった。訪問前日までは、自衛隊員が危機管理センター会議室に滞在し、地図を用いて被害状況の整理にあたり、自衛隊の活動が終了した後も、県職員がその地図を活用していた。また、県の防災情報システムを用いて被害情報の整理・共有を図っていた。



写真1 沖縄県職員へのヒアリング

(2) 東村

東村役場（20日訪問）では総務財政課を訪問し、被害状況・対応状況の確認を行った（写真2）。総務財政課では防災を担当している職員は1名で、沖縄県庁から県職員が2名体制で入っている状況であった。

担当者によると、9日に被害が発生した後、10日には全職員が出勤し被害が大きかった3地区の全戸訪問を実施。住家の浸水深や車両・家財の被害を職員が記録していたという。村ではその後も計3回ほど被災地域を巡回し、確認した被災状況をもとに災害ごみ受



写真2 東村職員へのヒアリング

入に関する情報の提供等を行っていた。

また、村ではドローンを防災やイベントの記録用に保有し、職員により運用できる体制であった。今回の災害では土砂災害等の被害状況の確認に使用し、知事の現地視察の際に、そのドローン撮影写真をもとに被害状況を説明したとのことである（写真3）。



写真3 ドローン撮影写真



写真4 り災証明発行受付の案内

また、役場の入口付近には「り災証明発行受付」と書かれた案内板が設置されており（写真4）、住民の生活再建に向けた動きが始まっている様子が見受けられた。

東村 有銘区（20日訪問）は東村で最も大きな被害を受けたとされる地区であり、今回の調査では**有銘公民館**周辺を訪問して被害状況・対応状況の確認を行った。公民館には、「災害廃棄物の受入は20日まで」という表示がされていた（写真5）。また、周辺の道路や農地に泥が流入した様子を確認した（写真6）。



写真5 災害廃棄物の受入状況



写真6 有銘区の泥の流入現場

（3）国頭村

国頭村役場（21日訪問）では、総務課を訪問し、被害状況・対応状況の確認を行った（写真7）。総務課で防災を担当している職員は1名で、沖縄県庁から県職員が3名体制で入っている状況であった。訪問した際には、総務課で在席している職員は様々な電話対応を行っている様子であった。



写真7 国頭村役場

また本部運営支援として、沖縄県南部の自治体の防災監経験者（A氏）が支援を行っていた。21日時点では本部運営支援のニーズが落ち着いたため、現地拠点となっている比地コミュニティ施設で村職員の支援を行っているとのことであった。

国頭村 比地区（21日訪問）では、対応拠点となっている**比地コミュニティ施設**を訪問し、被害状況・対応状況の確認を行った。比地区は国頭村で最も大きな被害を受けたとされる地区である。この施設自体も、写真の赤線以上の高さまで浸水があったといい、訪問時には床下の乾燥を行っていた（写真8）。



写真8 比地コミュニティ施設の浸水被害

比地コミュニティ施設では、救援物資の受入れが行われていた（写真9）。訪問した時点では、国頭村の職員が配置され、救援物資の受入れの対応を行っており、前述のA氏も現地で支援を行っていた。今回の災害では、災害ボランティアセンターが設置されていないため、当初はこちらの拠点でもボランティア受入れの対応を行っていたという。



写真9 ボランティア・救援物資受付



写真10 災害廃棄物の仮置場

また、施設周辺では災害廃棄物の受入れが行われていた（写真10）。

現地ではA氏の案内で、集落内の被害状況の確認を行った。この集落は2本の川（比地川と奥間川）の合流地点付近に位置し、背後には急峻な山がそびえる地形であった。被災当時は奥間川の水位が高く、比地川に向けて土砂や流木等が流れ込んだ様子であり、金属製の柵が倒れている箇所もあった（写真11）。比地川の被災箇所では、堆積物や土砂を除去する工事が始まっていることを確認した（写真12）。



写真11 流入による被害



写真12 復旧工事の状況

地区内の農地には多量の赤土が流入しており、サトウキビ以外の作物が栽培できない状況になっている（写真13）。復旧には相当の時間を要するとみられる。集落内では、このほかにも土砂に埋まった車両等を確認した（写真14）。



写真13 農地への泥流入状況



写真14 土砂に埋まった車両

比地区では、このように大きな被害があったものの、地域住民らによる自発的な避難行動により人的被害が出なかったとのことである。

（4）大宜味村

大宜味村役場（21日訪問）では、総務課を訪問し、被害状況・対応状況の確認を行った（写真15）。総務課で防災を担当している職員は1名であった。既に災害対策本部は閉じていたが、沖縄県庁から派遣された県職員が執務にあたっている様子も確認できた。



写真15 大宜味村役場

大宜味村根路銘区（21日訪問）では、農村活性化センターを訪問し地域住民からヒアリングを行った。11月10日の朝には、タイヤが10分ほどで満杯になるほどの雨が降っており、恐怖を感じたという。この地域で大雨により大きな被害を受けたのは、60年ぶりくらいであったという。また、同村で最も被害が大きかったとされる**津波区**（21日訪問）では、海水が濁っていることなどを確認した。

4. まとめ

今回の災害対応では、被災自治体に県職員や防災監経験者が入り、県が現地の状況を把握したことで、具体的な支援につなげていることを確認できた。この事例のように、災害対応の初動においては、積極的に人員を派遣して現地の状況を把握することが重要であると改めて認識した。

今回特に被害の大きかった沖縄本島北部にある3村は県庁所在地的那覇市から離れており、地域外との交通を特定の道路に依拠する状況であった（写真16）。これは、令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けた奥能登地域と共通する要素であるといえる。このような地域では、道路の途絶等により孤立する懸念が強く、初動期の状況把握が困難になることが考えられる。また、沖縄県は全国的な応援が難しい地域でもある。そのため、通信手段の確保や備蓄など、孤立に備えた対策を含めて検討しておくことも重要であろう。



写真 16 沿岸部の道路状況

今回は激甚な水害で浸水深も人の背丈ほど高い状況であったが人的被害は出ていない。地域住民の避難行動などについて、さらに調査を行う必要があると考えている。

最後に、被災された方々にお見舞いを申し上げますとともに、速やかに心穏やかな生活に戻ることができるよう心からお祈りいたします。大変な状況の中、現地にてご対応いただいた皆様・ご協力いただいた関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。

参考資料

- 1) 沖縄気象台「令和6年11月7日から11月10日の大雨について」（2024年11月11日）
<https://www.jma-net.go.jp/okinawa/data/kencho/2024/2411.pdf>
- 2) NHK「沖縄本島地方で線状降水帯による猛烈な雨 安全確保を」（2024年11月9日）
<https://www3.nhk.or.jp/lnews/okinawa/20241109/5090029868.html>
- 3) 沖縄県「避難情報履歴」『沖縄防災情報ポータル ハイサイ！防災で〜びる』（2024年11月25日閲覧）
https://bousai-okinawa.my.salesforce-sites.com/P_PUB_VF_HinanList?kind=hinankankoku
- 4) 沖縄県「令和6年11月8日 大雨・洪水警報 被害状況」（2024年12月13日8時00分現在）
<https://bousai-okinawa.my.salesforce-sites.com/rest/services/apexrest/downloadfile?fileid=00PJ200000CgijPMAR>
- 5) 気象庁「過去の気象データ検索：観測史上1～10位の値（年間を通じての値）：東（沖縄県）」（2024年12月16日閲覧）
https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/view/rank_a.php?prec_no=91&block_no=1374&year=&month=&day=&view=np0

（文責：松村圭悟・南貴久）

DRI 調査レポート No.56 (2024年12月25日現在)



公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構
人と防災未来センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2
TEL：078-262-5066、 FAX：078-262-5082